



# よつかいどう 支えあい通信

第12号 (秋号)

支えあいの活動を知って  
つながりましょう



トピック

## 地域活動の輪が広がりました！

みそらには 2019 年から『ちょこっとお願いみそらの輪』という支えあいの仕組みがあります。この仕組みは、支えあいについて考え、住んでいる地域内の「ちょっとした困りごとのおたすけ隊」としてサポートする団体です。サポートする人の家には目印として、玄関先に『ちょこっとお願いみそらの輪』という「のぼり旗」を掲げています。

ある日、みそらに一人暮らしの母親が住み、自身は遠方に住むという娘さんが、この「のぼり旗」を見て相談に来られました。

相談内容は、「自身が殆ど親元に帰って来れず、母親一人での生活の様子が心配で、見守ってくれる人がいたら安心なのだが」というものでした。

コロナ禍で活発に活動することが難しい状況ですが、相談を受けたサポーターは、娘さんと相談の上、できる範囲内で定期的な見守り・報告で対応することにしました。

小さな活動が地域に役立っているという実感を持ったそうです。



こんにちは！

生活支援コーディネーターです

コロナウイルス感染者の増減が

繰り返されています。

また、天気不順ながら

残暑が続いています。

水分の補給は

こまめにしましょう

お付き合いを自粛して、  
孤立や孤独を感じている方が  
増えています

『**気かけあい**』で

豊かなつながりを

はぐくみましょう！

発行

〒284-0003

四街道市鹿渡無番地  
総合福祉センター分館

四街道市地域包括支援センター

生活支援コーディネーター  
田中・林

電話：043-420-6070

FAX：043-424-6707

mail:shien-center

@yotsukaido-shakyo.or.jp

発行：2022/9月

ちょっと  
いい話

## 感謝のところが医療従事者に繋がりました

市内在住で匿名希望の A さん（女性・独身）が、コロナ対策で日々、対応・治療して頂いている医療に従事している方々に感謝の気持ちを伝えたいと、2年間かけて 11 束の千羽鶴を折りました。

その感謝の気持ちを四街道市社会福祉協議会を通じて医療関係者にお届けしました。医療現場の皆さんは思わぬプレゼントにほっこり♡「心がじゅわーと温くなりました。明日からまた頑張れそうです」と…



届けられた千羽鶴

順不同

社会福祉協議会では、地域での支えあい・助けあい活動を支援しています。今回、ひとりの感謝のところが多くの医療従事者の方々にお届けする『架け橋』となることができました。これからも、このような『ありがとう』の気持ちの輪が広がっていければと思います。

## 「四街道の支えあい 100 人情報交換会その②」を オンラインで開催しました♡♡

2022年1月に続き、7月16日(土)に第2回目となる「四街道の支えあい 100 人情報交換会その②」をオンラインで開催しました。

鈴木市長のビデオメッセージに続いて、3団体の活動報告がありました。合計113名（オンラインで70名、市福祉センターの会場で30名、千代田中学校地区地域福祉館会場で13名、その他ウエルシア鹿渡店内、YouTube 放映など）の多くの方にご参加いただきました。

### 鈴木陽介四街道市長 挨拶 (ビデオメッセージ) 要旨



四街道市は、今、私が健康に力を入れようと市政の新たな担い手となって全力で突き進んでいるところです。介護予防・認知症予防など高齢化に伴う多くの課題がありますが、行政だけでは解決できません。そのため多様な主体がそれぞれの強みを生かし合って、四街道の地域づくりを進めていく必要があります。

本日の会が、四街道の困っている人を助ける地域力を高める機会になれば、と心から願っています。

充実した議論を楽しみにし、この場で出た様々なご意見を市政に反映できればと考えています。

(旭中学校地区)

### お寺で集うみんなの居場所 (高齢者の居場所を再スタートしました)



満開の居場所 (福星寺) の桜

発表者：岡田 はる美  
場 所：吉岡 福星寺

吉岡区では老人クラブが休眠状態で、高齢者の居場所がなかった。そこで、区内にある福星寺を集いの場として毎月一回の高齢者サロンを開催することにした。サロンはお世話スタッフのいない自由にお茶を飲むおしゃべり会である。民生委員・地区社協・各自治会の協力を得ながら会を運営し、時折、福祉施設のバスを借りて花見を行うなど、

『居場所が支えあいをつくっています』を実践している。

みなみ地域包括支援センターの働きかけで『みんなの家さら』や『あさひ園』などの地域内の福祉施設を繋いでいただき、参加者みんなで意見を出し合って過ごしやすい居場所となっている。



サロンでの活動

(西中学校 B 地区)

### 居場所がない地域で居場所を作りました『いこいのもり』

発表者：駒澤 廣男  
場 所：大日

西中学校 B 地区内には誰もが集まれる居場所がなかった。西中 B 地区社協として、既に拠点を持つ他の地区社協に見学に行き、地域に最適な居場所について検討会を重ねた。検討会には地域包括支援センターの他、認知症の支援関係者、ケアマネジャー、地域の看護師などいろいろな立場の人が参加した。

居場所  
(桜ヶ丘中央区コミュニティセンター)



サロンでの活動

そして見つかったのが現在の桜ヶ丘中央区コミュニティセンターを活用した「いこいのもり」である。「皆が同じことをしなくても良い」をコンセプトに、利用者は自由に時を過ごし、自由連絡帳で好きな想いを書いて、他の人と交流できる居場所となっている。

(四街道中学校地区)

### 認知症は専門職の役割「実践」「指導」「相談」だけでは 支えられないと思った！ (四街道市 元祖オレンジカフェ)

発表者：西 ケイ子  
場 所：和良比 なごみの家

「今までの自分自身の活動では認知症になられた方を支えられない」と思った。認知症対策の必要性を感じ、2004年認知症看護認定看護師の資格を取得し「デイサービス和良比なごみの家」を開設した。

ここでは、「認知症になっても住み慣れた地域の良い環境で暮らし続ける事」を目標にして月1回カフェを開いている。認知症の方、ご家族、専門職の方、認知症に関心がある方、ご近所の方など誰でも参加でき、お茶を飲みながら認知症のことや介護方法について学んだり、介護している方の経験を聞くなど、楽しくおしゃべりしながら交流できる場だ。

みなみ地域包括支援センターと連携をとりながら、参加者同士が誘い合って車で送迎するなど、みんなで作り上げている居場所となっている。



2015年から毎月第2日曜日



薬剤師を囲んでカフェで勉強会

現在は、毎月第3日曜日  
10時～12時です



常連の皆さんが送迎し、えさしてくれています

当日参加できなかった方は、市社会福祉協議会のホームページまたはYouTubeで見ることができます。

携帯電話・スマホで右のQRを読み取りアクセスしてください。

